

1. 件名：福島第一原子力発電所における実施計画の変更認可申請（2号機原子炉格納容器内部詳細調査）に係る面談
2. 日時：令和2年12月23日（水）11時00分～11時30分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者  
原子力規制庁 原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室  
知見主任安全審査官、高木技術参与  
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー  
福島第一原子力発電所 担当2名

## 5. 要旨

○東京電力ホールディングス株式会社から、実施計画の変更認可申請（2号機原子炉格納容器内部詳細調査）について、資料に基づき主に以下の説明があった。

- 原子力規制庁からの確認事項に対する回答について
  - ✓ 火災に対する対策
    - ◇ 実用上可能な範囲で不燃性又は難燃性の材料を使用する他、ブラシレスのサーボモータを用い火花が生じないように考慮すること、内部調査中のエンクロージャ内は窒素充填すること等により、火災が発生するおそれは非常に低いと考えている。
    - ◇ 万一、火災が発生したと想定しても、最も発生熱量が高いベローズ（可燃物の物量が最大となる、内部調査中のエンクロージャ設置時を想定）に対し、通常の消火器（能力単位：A-3、B-3）で消火可能である。このため、作業エリア近傍に当該消火器を複数配備することにより、初期消火は可能と考えている。
    - ◇ 工事用機材として持ち込む紙ウエス、養生シート等の可燃物は、必要最小限の量を搬入するとともに、不要となった物は作業終了ごとに搬出する。
    - ◇ エンクロージャ周辺にある計装ラック、ケーブル等の可燃物の物量は数十kgと推定しており、上記の消火器で消火可能であるとともに、当該可燃物はエンクロージャ等の装置から離れた場所にあるため、発火した場合でも影響はないと考えている。
  - X-53ペネトレーション（以下「ペネ」という。）内丸棒への対応について
    - ✓ 2012年1月の原子炉格納容器の内部調査時に、X-53ペネ内にステンレス鋼製の丸棒を残置していたことが判明。当該丸棒は、X-53ペネに設置するスプレイ治具と干渉するため、撤去する必要がある。
    - ✓ 現在、当該丸棒をX-53ペネから撤去するための装置を検討中であり、X-53ペネの孔径拡大後に撤去作業を実施予定。

○原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認した。

## 6. その他

資料：

- 福島第一原子力発電所2号機原子炉格納容器内部詳細調査 補足説明資料
- 福島第一原子力発電所2号機原子炉格納容器内部詳細調査 スプレイ治具の設置について